

PWE 誌の現状と課題

Present situation and future prospects in PWE

○溝口勝¹・凌祥之²

MIZOGUCHI Masaru¹, SHINOBI Yoshiyuk²

1. はじめに

PWE 誌は今年で 11 年目を迎え、2011 年の Impact Factor=0.986 の評価を受けている。この値は、国際誌の農業工学系で 7 位(12 誌中)、農学系 41 位(71 誌中)で、国際ジャーナルとして客観的に高い評価である。しかし、一方で、投稿数が急増したため、昨年は 58 件の論文が掲載待ちになり、2013 年は 1-4 号の合併号を出さざるを得ない状況になった。本発表では、PWE の現状と課題を報告すると共に、効果的な解決策について議論したい。

2. PWE 誌とは

国際水田・水環境工学会 (PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌「Paddy and Water Environment」の略称である。2003 年 3 月創刊した。日本・韓国・台湾の農業工学系の研究者や技術者を中心に編集され、年 4 回 Springer-Verlag 社(ドイツ)から定期刊行されている。

3. PWE の編集

(1) 編集方針 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的とし、基本的には農業農村工学会にある水田農業工学に関する分野を対象にしている。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類である。投稿から掲載までの時間を短縮するために、農業農村工学論文集と同じ Web による査読システム(Editorial Manager)を導入している。

(2) 編集体制

Table-1 のような体制で編集作業にあっている。実質的な編集事務局は Chief Managing Editor が担当している。

Table-1 PWE の編集体制

a. Editor-in-Chief(日本 1 名)
b. Associate Editor-in-Chief(台湾, 韓国から各 1 名)
c. Chief Managing Editor (CME ; 日本 1 名)
d. Managing Editors (ME ; 5 名)
e. Editors (22 名; 14 か国)
f. Editing Board (29 名; 17 か国)
g. Reviewer (2 名; 通常は f から選ばれる)

(3) 原稿の流れ

著者が Web 投稿すると、1) Springer 事務局が必要項目チェックし、2) CME が ME を指名し、3) ME がリストから Editor を選び、4) Editor が Reviewer を選ぶ。その後、Reviewer の査読結果を参考に Editor が著者に修正を求め、修正原稿を再び Reviewer に査読してもらい、掲載可と判断された原稿が CME に報告される。

4. PWE 編集の改善

PWE に Impact Factor がついたことにより、投稿数が急増し、2012 年 12 月の時点で 58 件の掲載待ち状態となってしまった。これは 1 年間の掲載論文数を超える数である。この状況の打開策として 2013 年 1 月に 1-4 号の合併号を発刊したが、依然として投稿数は増えており、編集方法について抜本的な改革が必要である。

(1) データベースの再整備

原理的には 3 の編集方針で運用しているつもりであるが、Web 査読システムのデータベース(DB)が不完全なこともあり、実際には必ずしもスムーズに進んでいないこともある。そこで、実際に編集作業を熱心に協力してくれる研究者を精査し、現在 DB を再整備している。

¹ PWE Editor-in-chief, 農業農村工学論文集編集委員長, 東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo

² PWE Chief Managing Editor, 九州大学大学院農学研究院 Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University

キーワード: PAWEES, PWE, 水田・水環境研究

(2) 投稿者の確認

農業農村工学会誌上では、「投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限り、投稿料、掲載料などを無料」としている。しかし、PWE 誌上には PAWEES の機関誌という記載しかないため、実態は日本以外から誰でも投稿できるようになってしまっている。しかし、PWE の扱う水田研究はアジア・アフリカの発展途上国を対象国とするからこそ価値があるので、これらの国々からの投稿を投稿料・掲載料というハードルで規制するのも得策ではない。一方で投稿数の急増したことで、従来の PWE 編集方針では原稿を裁ききれなくなっているのも事実であり、海外の会員管理も含めてこれらのジレンマをどのように考えるかは頭の痛い問題である。

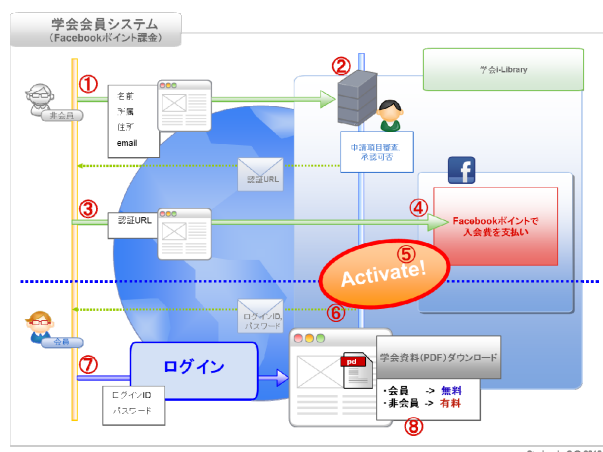


Fig. 1 検討中の Facebook を利用した会員管理の方法

Table-2 会員管理の手順

- 1.当サイト新規登録ページにて申請者情報を入力
- 2.事務局に送られてきた申請者情報を審査し、承認の可否を決定
- 3.承認された申請者は認証 URL をメールで受け取り、当サイトにアクセス
- 4.Facebook ポイント(※)で入会費を支払い
- 5.入会費支払い後、自動的に当サイト会員に登録・ログイン
- 6.ログイン ID・パスワードをメールで送信
- 7.次回からはログイン ID とパスワードで、当サイトにログイン
- 8.会員用システムを有効期限まで利用可能

Table-3 Facebook ポイントの特徴

- 1.会員は Facebook ポイントを購入し、当サイトの支払いが可能
2. Facebook ポイントは、下記決済方法から選択できる。PayPal/クレジットカード (VISA、MasterCard、JCB) /携帯決済(一部国、事業者不可)
3. Facebook 利用手数料は、収益の 30% (AppStore、GooglePlay 等と同額)
- 4.上記手数料を差し引いた残りが、指定の口座に振り込まれる
- 5.複数口座の指定は不可
- 6.Facebook 管理画面から、売上詳細を確認可能

(3) 会員サービス

PWE が PAWEES の機関誌である限り、PAWEES 会員に対するメリットがなければならない。その最大のメリットは投稿論文の迅速な掲載である。すなわち、Web 投稿された論文を非会員と同等に扱うのではなく、ある程度優先的に査読に回すようなサービスを考える必要がある。問題は会員管理の方法である。現在は日本、韓国、台湾の農業工学系の学会が団体登録する形で PWE 誌の購読会員となっている。これを海外も含めた個人登録可能な会員管理に改める必要がある。

この問題に関して、個人的には現在 Facebook を利用した会員管理の方法 (Fig. 1, Table-2, Table-3) を検討中である。しかし、2012 年の PAWEES 会合で紹介してみたが、年配会員からは意外に否定的な反応が多かった。改めて農業農村工学会諸氏から意見を伺いたい。

4. おわりに

水田農業はアジアモンスーン地域の風土に根ざした技術である。その意味で、日本が PWE を通して、その学術・技術に関する知を世界に発信することの意義はきわめて大きい。そのためにも PAWEES の会員管理も含めた PWE 編集体制の整備を急ぐ必要がある。

参考文献

溝口勝:PWE 誌の査読システムと編集方針, 農業農村工学会大会要旨集,(2011)